

豊富な経験と技術力を持った医師による人工骨頭置換術 先端機器を駆使した早期の総合診断と高度治療を行う

2012年は約100例以上 人工骨頭置換術を実施

清陽 日本は世界の長寿国となりましたが、それに伴って高齢による運動能力の低下から起る転倒や骨粗鬆症が原因となった大腿骨頭部(太ももつけ根)骨折がクローズアップされています。

桑原 大腿骨頭部骨折の患者さんは例年、10月～3月に多いのが特徴です。ほとんどが65歳以上の高齢の女性です。

中嶋 最近、増えているのは80歳以上の高齢者です。80歳を超えると全員が骨粗鬆症になっていると思ってもいいでしょう。このため、わずかな衝撃で大腿骨頭部を骨折したりします。

清陽 骨折に気が付かなくて発見が遅れることがあります。起きられずに数日間寝ていて、褥瘡(床ずれ)になってから来院する方もいます。中には受傷1カ月後というケースもありました。

桑原 大腿骨頭部骨折は寝たきりの原因になり、ADL(日常生活動作)が著しく低下します。寝たきりになると褥瘡はもちろん、心肺機能や筋力の低下などの合併症に悩まされます。

中嶋 大腿骨頭部骨折の方の約20%が肺炎になるといわれています。

清陽 寝たきりになると嚥下機能が著しく低下するため、口の中の唾液、たん、食べ物や気管の中に入り込むことで起こる誤嚥性肺炎のリスクが高まります。

中嶋 大腿骨頭部骨折の場合、外側骨折と内側骨折に大別されます。外側骨折は主に骨接合術で対応します。内側骨折は人工骨頭置換術を行います。

桑原 忠義 医師

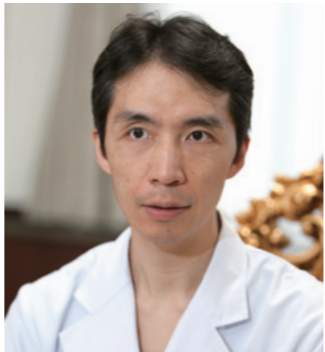


くわばら・ただよし
1993年、東邦大学医学部卒業。新潟大学附属病院、東邦大学医療センター大橋病院を経て、2000年より三愛病院に勤務、整形外科部長。日本整形外科学会認定整形外科専門医

清陽 輝久 理事長

わたよう・てるひさ
1975年、東邦大学医学部卒業。85年、三愛病院設立。97年、医療法人社団松弘会理事長。1993年、埼玉県で先駆けて腹腔鏡下手術を実施。2005年2月に当日立位、歩行が可能な人工骨頭置換術を学会で発表している

中嶋 祐作 医師



なかじま・ゆうさく
1995年、日本医科大学卒業後、日本医科大学付属病院勤務。2007年より三愛病院に勤務。医学博士。日本整形外科学会認定整形外科専門医

320列CTに次いで MRI3.0テスラの 先端機器が本格稼働

清陽 三愛病院では患者さんの全身状態をチェックした上で手術に臨んでいます。このため、検査機器の充実し力を注いできました。2013年6月には新型64列マルチスライスCT(コンピュータ断層撮影法)を導入し、9月からは320列CTが本格稼働しました。320列CTは、従来の3次元(3D)空間情報に時間軸情報が加わった4次元(4D)画像が特徴で、1回転で最大16cmの範囲を0.275秒で撮影でき、320枚の画像収集が可能です。また、新ワイヤレスステーション(画像解析装置)を導入し、高度な処理や解析を行っています。

中嶋 320列CTの場合、血流動態を時的に把握することが可能になりました。従来、骨頭への血流の評価が期待できなかったため、CTと比べて短時間に撮影できるため、被曝量の低減化にもつながります。

桑原 人工骨頭置換術では虚血性心疾患を潜在的に持っている方が多いので、冠動脈の評価は欠かせません。先端機器は術中だけでなく、術後の虚血性心疾患の予防に役立っています。

清陽 2011年夏の新型MRI核磁気共鳴画像法1.5テスラ導入に続き、13年11月にはMRI3.0テスラが本格稼働しました。MRI3.0テスラは、磁場強度の上昇により多断面、高分解の画像が得られることが大きな利点です。新機器により全国では数少ない心臓の検査も行っています。造影剤を使わずX線被曝も少ない安心検査です。

中嶋 大腿骨頭壊死の場合も人工骨頭置換術を行うことがありますが、MRI3.0

桑原 当院では入院時から医療相談室が患者さんや家族の相談に乗っています。看る人がいない場合は、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどの介護施設を斡旋するなど、退院後の行き先や環境・背景の整備などを精力的に行っています。

清陽 医療相談室では、専任の相談員が患者さんの悩みや心配事の相談に応じます。中には介護保険のことを知らない場合もあるので、情報交換をしながら円滑に退院していただけるよう心がけています。人工骨頭置換術を行った患者さんからは、「歩けるようになって本当によかった」と感謝されています。これからも総合診断による疾患の早期発見と早期治療を徹底していきます。

**破骨細胞の形成を促した
んぱく質の働きを抑える抗
RANKL抗体薬「デノスマ
ブ」が発売されました。新薬
の登場により、骨粗鬆症治
療の選択肢が増えました。**

桑原 骨粗鬆症はカルシウムの摂取量が左右されます。「日本人の食事摂取基準」によると、健康を維持するために摂取すべきカルシウム目安量は1日700mgとされていますが、現状の平均値は550mgに満たない結果となっています。欧米人に比べて半分以下で、乳製品の摂取量が少ないことが理由の一つといえます。

中嶋 乳製品を摂取しない人が多いため、1日当たりのカルシウムの摂取量を計算して、足りないところはカルシウム剤などで補う必要があります。

桑原 骨粗鬆症の予防では、1日1万歩歩くことをおすすめしています。ただ、1万歩という結構な数字となり、やる気がなくなってしまうから、1日1時間歩きましょと話しています。朝夕30分ずつ、あるいは20分ずつ3回に分けて歩くといでしょう。

中嶋 大腿骨頭部骨折の場合、ご自宅に戻ることができる方は50%未満となっています。家族が看られないなどの介護力不足の問題があるからです。



(上) 320列CTにより、人工骨頭置換術の際の総合診断を行う



(左上) 11月から稼働したMRI3.0テスラ。高磁場MRIならではの高精細な画像が得られる



(左) 大腿骨頭部骨折で人工骨頭を挿入

骨粗鬆症の予防は カルシウムの定量摂取と 1日1時間歩くこと

桑原 大腿骨頭部骨折の予防は、定期検査で骨密度を測ることをおすすめします。骨密度は骨の強さを示す指標で、20～44歳の平均値の70%未満、弱い力が加わっただけで骨折するなどの場合に骨粗鬆症と診断されます。

中嶋 骨粗鬆症になった場合、まず骨を壊す働きを抑えるビスホスホネート製剤やSERM(選択的エストロゲン受容体モジュレーター)製剤が第一選択となります。次いでカルシウムの吸収を良くする活性型ビタミンD3などの薬を使います。また、骨を強くする働きがあるPTH製剤(テリパラチド)も有効です。

清陽 2013年6月には骨を破壊する

医療法人社団 松弘会
三愛病院 埼玉県さいたま市桜区田島4-35-17
TEL.048-866-1717(代) http://www.sanai.or.jp
診療科目: 外科、整形外科、脳神経外科、内科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、リハビリテーション科、放射線科、形成外科、泌尿器科、麻酔科(長野治和)、呼吸器外科、リウマチ科、心臓血管外科、皮膚科、歯科、歯科口腔外科
診療時間: 平日 9:00~17:00(受付は16:00まで) 土 9:00~12:00
休診日: 日・祝

人工骨頭置換術当日歩行の動画が見られます。

椎体形成ワイヤレスステーションの動画がみられます。

QRコード対応携帯をご利用の方はコードをカメラで読み取りアクセスしてください